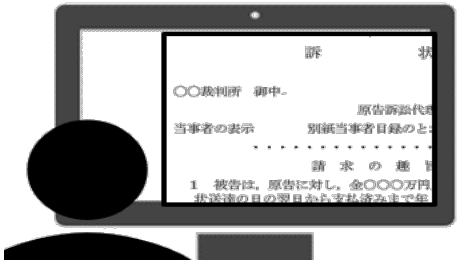
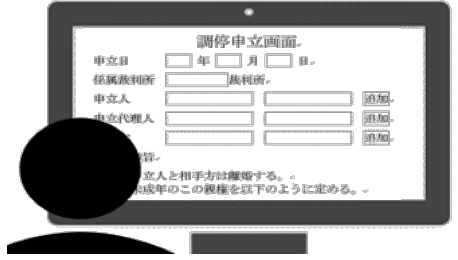
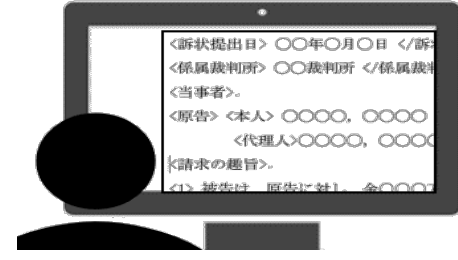
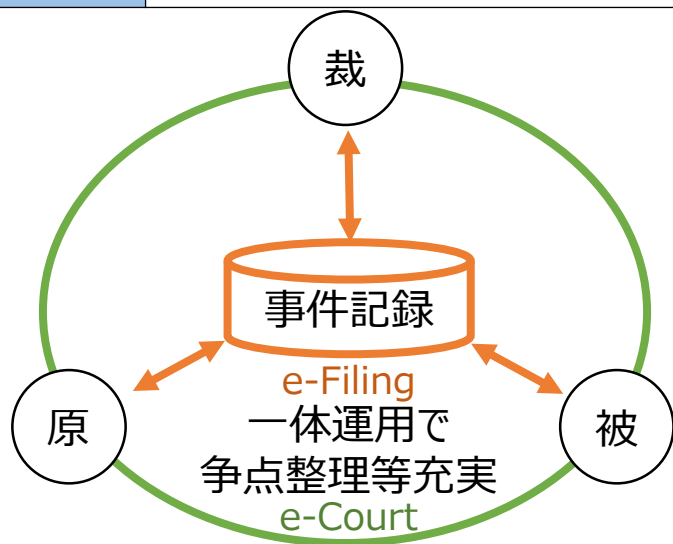


3つのe実現の手順（平岡私案）

	第1次	第2次	第3次
e-Court	※第1～3次を通じて継続的に構築		
e-Filing	<p>・全ての民事訴訟を対象とした従来型書面アップ方式</p>  <p>ファイル登録システム</p>	<p>・類型訴訟(家事等)のフォーム方式</p>  <p>作り込みの必要なシステム</p>	<p>・非類型訴訟のタグ付書類アップ方式</p>  <p>利用者の習熟も必要なシステム</p>
e-Case Management	※第1～3次を通じて継続的に構築		



e-Filingとe-Courtを一体運用しないと……

1. e-Courtで取扱う文書を電子メール等で提出
→誤送信やなりすまし等のセキュリティリスク
2. 電子メールでの提出では、送信できる容量に限界がある
3. 何がやり取りされたのか、管理が難しくなる
→e-Case Managementの対象にしにくい
4. e-Filingにおいて先行している世界の潮流に完全に乗り遅れる
→裁判文書をデジタル化して高度利用できなくなる